

令和 3 年 (2021) 11 月吉日  
奈良国立博物館

# 名画の殿堂 藤田美術館展 一傳三郎のまなざしー

A Long View: Masterworks of Painting from the Fujita Museum

## 報道発表資料

[1] 主 催 奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK 奈良放送局、NHK エンタープライズ近畿  
特別協力 藤田美術館  
協 賛 大成建設、ライブアートブックス  
協 力 Osaka Metro、日本香堂、仏教美術協会

[2] 会 期 令和 3 年 (2021) 12 月 10 日 (金) ～令和 4 年 (2022) 1 月 23 日 (日)  
休 館 日 毎週月曜日及び年末年始 (12 月 28 日～1 月 1 日)、1 月 11 日 (火)  
※ただし 1 月 3 日 (月)・10 日 (月・祝) は開館  
開館時間 午前 9 時 30 分～午後 5 時  
※入館は閉館の 30 分前まで

[3] 会 場 奈良国立博物館 西新館

[4] 観覧料金 一 般 1,200 円  
高校生・大学生 1,000 円

※ 前売券はありません。

※ 奈良国立博物館キャンパスメンバーズ会員 (学生) の方は 400 円、同 (教職員) の方は 1,100 円となります (要証明)。参加校など詳細は奈良国立博物館公式サイトでご確認ください。

※ 障害者手帳またはミライロ ID (スマートフォン向け障害者手帳アプリ) をお持ちの方 (介護者 1 名を含む)、奈良博プレミアムカード会員の方 (1 回目及び 2 回目の観覧) は無料です (要証明)。

※ この料金で名品展 (なら仏像館・青銅器館) もご観覧いただけます。

[5] 出 陳 品 74 件 ※うち 23 件 (24 点) は初公開  
※出陳品リストは別紙

## 〔6〕 展覧内容

本展は 2019 年春に開催した特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展」の続編で、今回は藤田美術館の所蔵品のなかから絵画作品を中心に構成し、様々な時代の名品を一堂にご紹介いたします。

明治時代に活躍した大阪の実業家であった藤田傳三郎（1841～1912）の蒐集にはじまる藤田美術館の絵画コレクションには、日本絵画史を通史的に把握するために十分な質と量の作品が所蔵されています。本展ではコレクションの礎を築いた藤田傳三郎がどのような意識をもって美術品蒐集を行ったかに注目しつつ、各時代の名品を展示いたします。

また本展では、全 74 件の展示作品中、初公開作品が 23 件（24 点）、藤田美術館外での公開が初めてとなる作品が 19 件を数えます。これらは、近年藤田美術館と奈良国立博物館が共同で行った所蔵絵画の調査によって確認された隠れた名品群です。本展では、国宝や重要文化財に指定されるコレクションを代表する絵画作品とともに、こうした隠れた名品をご覧ください。

2022 年 4 月に控えた藤田美術館のリニューアルオープンを前に、コレクションの魅力を一層深く味わっていただく機会となれば幸いです。

## 〔7〕 主な出陳品

1

### 藤田傳三郎坐像

木造 素地

明治時代～大正時代（20 世紀）

初公開

おそらく現存する唯一の藤田傳三郎の肖像彫刻。広葉樹の一材から彫り出し内刳はなく、素地仕上げとする。顔の皺まで克明に表現され、傳三郎の肖像写真と比べても風格がある。伝来・作者は不詳。



2

### 大獅子図 竹内栖鳳筆

絹本著色

明治 35 年（1902）頃

京都画壇の巨匠・竹内栖鳳の代表作。明治 33～34 年の渡欧後にライオンの絵が評判となった栖鳳が、明治 37 年に開催された米国・セントルイス万国博覧会に出品する刺繍壁掛の下絵として描いたものと指摘される。日本画の技法を用いて金地を背景に堂々としたライオンの姿を描く、藤田美術館の近代絵画を代表する傑作。



3

国宝 **玄奘三蔵絵** 巻四 高階隆兼筆

紙本著色

鎌倉時代（14 世紀）

中国唐代の高僧・玄奘の生涯を描く全 12 巻の絵巻で、奈良・興福寺の大乗院に伝来した。絵は当代一流の宮廷絵師であった高階隆兼が担当し、玄奘が経典をもとめて天竺（インド）を訪れる旅路を、色鮮やかに美しく描き出している。



4

鍾呂伝道図 （伝）馬麟筆

絹本著色

中国・南宋～元（13～14 世紀）

初公開

鍾離権が呂洞賓に仙術を伝える姿が描かれる。2 人はいずれも、八仙に数えられる代表的な中国の仙人である。南宋時代末の宮廷画家の手になるとされ、着色・淡彩と水墨を併用し、細かい描写で 2 人の性格まで描き分ける。貴重な宋～元代絵画の新出作例として、大いに注目される。



5

芦鱸藻鯉図 （伝）狩野元信筆

紙本著色

室町時代（16 世紀）

初公開

波濤の間から水中を泳ぐ魚たちが見える。所々顔を出す岩石、水面に浮かぶ水草や水中に揺れる藻が、水墨と着色を巧みに併用しながら描かれる。室町時代の画壇の中心に居た狩野元信の様式と見なされ、今回新たに確認された元信様式の藻魚図として貴重。



左幅



右幅

6

幽霊・髑髏・仔犬白蔵主図 (伝) 長澤蘆雪筆

絹本墨画淡彩

江戸時代 (18～19 世紀)

箱に「妖怪絵」とある。1 枚の絹に絵と表具までを描き、1 幅に仕立てている。中央に女性の幽霊、左に謡曲「釣狐」から狐が化けた僧侶である白蔵主、右に髑髏と仔犬を描く。どれも画面から抜け出るような表現が面白い。長澤蘆雪は円山応挙の高弟のひとり。髑髏に愛らしい犬を添える感性にも注目。



7

吉原通図 鳥文斎栄之筆

絹本墨画淡彩 著色

江戸時代 (18～19 世紀)

鳥文斎栄之は江戸時代後期の旗本出身の浮世絵師。この絵巻は隅田川を渡り、遊郭吉原へと繰り出す男性 2 人を描いている。はじめは男性たちが隅田川を渡る様子を墨のみでおだやかに描き、吉原に到着するや、華やかな着物を身にまとった女性が集う鮮やかな色彩の世界がはじまる。水墨表現から彩色表現へと転換するその対比が面白い。



8

重要文化財 阿字義

紙本著色 墨書

平安時代 (12 世紀)

密教で重要な意味を与えられた「阿字」と「阿字観」の意義を説いた平安時代に描かれた絵巻で、染紙に金銀で装飾を施した華麗な姿で名高い。幕末に古画を学び復古的な画風を確立した冷泉為恭の遺愛品と伝わる。



[8] 公開講座

令和3年(2021)12月11日(土)

「藤田家伝来の唐絵—中国絵画と中世日本水墨画」

板倉 聖哲氏 [東京大学東洋文化研究所教授]

【時 間】午後1時30分～3時(午後1時開場)

【会 場】奈良国立博物館 講堂

【定 員】各90名(事前申込先着順)

【料 金】聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)

【申込方法】

当館ホームページ「講座・催し物」→「公開講座」申込フォームより、必要事項をご入力の上お申込みください(WEB申込のみとなります)。

定員に達しましたので、受付は終了いたしました。

[9] お問い合わせ

奈良国立博物館 Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内)

電話 ハローダイヤル 050-5542-8600

奈良国立博物館ホームページ <https://www.narahaku.go.jp/>

〈交通案内〉

近鉄奈良駅下車徒歩約15分。

または JR 奈良・近鉄奈良駅から市内循環バス外回り「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

[10] 報道発表資料に関するお問い合わせ先

奈良国立博物館 学芸部情報サービス室

電話 0742-22-4463 ファクス 0742-22-7221

e-mail: [joho\\_narahaku@nich.go.jp](mailto:joho_narahaku@nich.go.jp)